



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織  
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 111) uniwish38号 (2022年1月)  
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号  
 (電話・FAX) 0952-28-2077  
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00  
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp  
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>  
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



◆世界中で起きている紛争や武力衝突の影響で、世界中の4人にひとり(5億3,500万人)の子どもが、紛争や不安定な情勢など、緊急事態下の国や地域で暮らしています。

## ※ アフガニスタン、イエメン等への人道危機緊急支援

### <アフガニスタン>

### 2022年人道支援資金要請、20億米ドル 一国への資金要請として過去最高額

★【2021年12月7日カブール/カトマンズ/ニューヨーク発】

ユニセフ(国連児童基金)は7日、アフガニスタンに住む2,400万人以上(そのうち半数が子ども)の人道支援ニーズに早急に対応するため、ひとつの国への支援要請としては過去最高額となる資金要請を発表しました。要請した20億米ドルの資金は、保健、栄養、水と衛生、教育、その他の重要な社会サービスの崩壊を食い止めるために使われます。



© UNICEF/UN0562566/Romenzi  
 カンダハールにあるユニセフが支援するクリニックの待合室で診察を待つ女の子。(2021年11月16日撮影)

### 栄養不良、感染症の流行、深刻な貧困

ユニセフの推計によると、アフガニスタンでは、食料危機や水と衛生サービスが十分に利用できないことによって、2022年には5歳未満児の2人に1人が急性栄養不良に陥るとされています。命を脅かす病気は流行し続けており、2021年には6万件を超えるはしかの症例が報告されています。10人中8人が細菌に汚染された水を飲んでしていると推定されています。教師の給料が支払われず、深刻な貧困状態が続くと、1,000万人の子どもが中途退学を余儀なくされる恐れがあります。約450万人の子どもが、メンタルヘルスや心理社会的支援を必要としています。摂氏-12℃にもなる厳しい冬の環境下で、家族は家と子どもたちを温めることで精一杯なのです。

★【2021年12月22日カブール(アフガニスタン)発】

### 致命的な条件重なる



© UNICEF/UN0562536/Romenzi  
 カンダハールで、移動式保健・栄養チームが子どもの栄養状態を調べている。上腕計測メジャーで「赤色」が示され、重度の栄養不良と診断された子ども。(2021年11月17日撮影)



© UNICEF/UN0538380/  
 地雷を踏み両足を失った17歳のイブラヒムくん。手術を受け、義足を装着し歩けるようになった。(2021年10月14日撮影)



© UNICEF/UN0536104/Ahmed  
 栄養不良で首都サヌアの病院に入院している、生後10カ月のハウラちゃん。(2021年10月10日撮影)

### <イエメン>

### 紛争による子どもの死傷者が1万人に 経済崩壊の深刻な影響も

★【2021年10月19日ジュネーブ発】

2015年3月に戦闘が始まって以来、イエメンで死傷した子どもの数が1万人に達するという、不名誉な節目を迎えました。これは、毎日4人の子どもが死傷していることに相当します。この数はもちろん、国連が確認できた件数です。さらに多くの、家族しか知らない、記録されることのない子どもたちの犠牲があります。

世界最悪と言われるイエメンの人道危機は、4つの脅威が悲劇的に重なり合っています。それは、(1)暴力的で長期化する紛争、(2)経済の崩壊、(3)あらゆる支援システム(保健、栄養、水と衛生、保護、教育など)の荒廃、そして(4)支援のための資金不足です。

ユニセフは、2022年半ばまでのイエメンでの活動資金として、2億3,500万米ドル以上を緊急に必要としています。資金は非常に重要です。しかしそれだけではなく、戦争を終わらせなければなりません。ユニセフは、あまりにも長く戦闘を続けている紛争当事者と、彼らに影響力を持つ人々に、戦闘の停止を強く求めます。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

# 「日本子どもフォーラム」 ～子どもの権利を基盤とした子ども施策の実現に向けて～ 11月20日開催 オンラインイベント報告

★【2021年12月2日東京発】

11月20日、オンラインイベント「日本子どもフォーラム～子どもの権利を基盤とした子ども施策の実現に向けて～」(主催：日本財団、共催：日本ユニセフ協会)を開催しました。その概要を報告します。

## こども庁に合わせ、「子ども基本法」と 「子どもコミッショナー」を

### 【こども庁の設置に向けて、日本ユニセフ協会からの訴え】

貧困や教育格差、いじめや虐待…。日本の子どもたちを巡る課題は多様化・複雑化しています。ユニセフが昨年発表した『レポートカード16』でも、日本の子どもたちの精神的幸福度の低さ(先進38か国中ワースト2位)が指摘され、国内でも大きな反響を呼びました。こうした政策課題に総合的に対処するため、政府は現在、様々な省庁が個々に担当している子どもに関わる政策を一元的に推進する「こども庁」(仮称)の設置に向けた検討を進めています。

日本ユニセフ協会は、「こども庁」のあり方が「子どもの権利条約」の主旨と内容を着実に反映したものとなるよう、働きかけを始めています。また、子どもの権利に関する「子ども基本法」と、子どもの権利状況をモニターし子どもたちの声を政策に反映させるための仕組みとしての「子どもコミッショナー」が必要であることについても、合わせて訴えています。

### ◆ ヘンリエッタ・フォア ユニセフ事務局長のメッセージ

#### 「子どもの権利促進、日本の役割に期待」



オンラインイベントには、ユニセフのフォア事務局長もビデオで参加。「日本のみなさまが子どものための新しい政府機関の創設を準備されていることに勇気づけられています」と子どもの権利を促進する日本の主導的役割への敬意と期待を示しました。また、ユニセフが実施した子ども・若者の意識調査

を引用しつつ、子どもの声を聴くこと、子どもが問題解決に参加できるようにすることの重要性を強調。「こども庁」や「子ども基本法」とともに設置の必要性に関する議論が進む「子どもコミッショナー」が、子どもの参加を促進し子どもの権利を実現する鍵となるはずだと語りました。

### ◆ 野田聖子・子ども政策担当大臣 (ユニセフ議員連盟会長)の来賓挨拶



冒頭の来賓挨拶では、野田聖子・子ども政策担当大臣(ユニセフ議員連盟会長)が、「子ども最優先の社会を創っていくために、こども庁の創設を实したい」「これまで日本はユニセフ

等を通じ、子どもたちへの国際的な支援で世界をリードしてきたが、これからは国内でもさらに、ユニセフの掲げる理念の実現を進めていく」等と述べられました。



基調講演 1

大谷美紀子  
(国連子どもの権利委員会委員長・弁護士)

弁護士の大谷美紀子氏は、基調講演の中で、子どもが権利の主体であることを正しく理解する重要性を強調。子どもに関することは常に権利の視点で考えること、そのための仕組みとして、子どもの権利に関する基本法、子ども施策を調整する機関、子どもの権利の専門家である「子どもコミッショナー」の“3点セット”が必要であることを訴えられました。

また、日頃から報道機関や国会議員などに「子どもの権利」の重要性を訴える活動に参加する3人の中高校生が参加し、「小さいうちから子どもの権利について知るべき」、「子どもに関係する政策や仕組みについては、子どもにわかりやすい言葉で説明してほしい」、「子どもが安心して何でも話せる機関が必要」などと訴えました。



専門家の基調講演と  
三人の中・高生の声



基調講演 2

セオニ・コフォニコラコウ  
(ギリシャ子どもの権利オンブズマン)



基調講演 2

ブルース・アダムソン  
(スコットランド子ども若者コミッショナー)

続いて登壇した英国スコットランドの子ども若者コミッショナーとギリシャの子どもの権利オンブズマンは、子どもたちと一緒に、子どもの権利の擁護者として活動する様子を様々な事例を交えて紹介。「子どもコミッショナー」が、行政から独立して、子どもたち自身の声を代弁できる組織であることの重要性を強調しました。



- 9月9日 (木) 小城高等学校 2年生4名  
使用済みインクカートリッジ贈呈&ユニセフ学習  
総合的な学習フィールドワーク  
テーマ: 「貧困をなくそう」  
「質の高い教育を」



- 9月21日 (火) フードバンクさがへ  
食料品持参



- 9月28日 (火) SDG s 絵画展 応募作品の審査会 <佐賀市立図書館 多目的室>  
応募作品 491点の審査 \*審査員 井上信宏先生 森 和幸先生



- 10月26日 (火) ~29日 (金) 第5回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展 【詳細はP6に掲載】  
<佐賀県庁 県民ホール>

- \*11月3日 (水) 表彰式&SDG s ミニ研修  
<佐賀市医師会立看護専門学校 講堂>



- 10月31日 (日) 2021 さが国際フェスタ in 小城 11:00~16:00 <小城市:小城公園>  
ユニセフ・ブース出店で参加 (ユニセフ活動紹介)  
出店内容: ユニセフパネル展示

- 【ユニセフってなあに?】  
【SDG s 広報・缶バッジづくり・  
SDG s 輪投げ・SDG s すごろく等】



- 11月10日 (水) ドリームパーク 出前講座 神崎市立西郷小学校  
内容: 「水から世界を考えよう」 夢組 15人

- 11月15日 (月) 東与賀小学校 人権教室 出前授業 全校児童456人 10:20~11:15  
<東与賀小学校校長室より各学級へオンライン>  
内容: 「ユニセフと世界のともだち」  
~ユニセフ学習を通して人権について考えよう~



- 11月17日 (水) ドリームパーク 出前講座 神崎市立西郷小学校  
内容: 「水から世界を考えよう」 星組 16人



- 11月25日 (水) 諫早市立小長井中学校 親子ふれあい講演会 講話13:35~14:35  
生徒100人 & 保護者30人 <小長井中学校体育館>  
講話内容: ユニセフと世界の子どもたち  
~人権とSDG s について考えよう~



- 11月30日 (月) 太良町立多良中学校 出前授業「英語」授業での国際協力授業  
講話: 「ユニセフ活動と国際協力」 Beyond Borders  
~自分にできることを考えよう~  
対象: 中学3年生 1・2クラス 42人



- 12月3日 (金) 嬉野市立塩田小学校 人権集会 出前授業  
講話: 「世界のともだちとユニセフ」 14:05~14:50  
~自分にできることを考えよう~  
対象: 全校児童135人 & 人権教育担当教職員 20人

- 11月 中旬～12月31日(金) 第43回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 募金活動 【詳細はP5に掲載】  
 \*2021年度は、新型コロナウイルス感染防止のため街頭募金活動ができなかったため、それに代わる募金活動として、スタッフ全員で、学校・団体 及び 店舗などでの募金を呼びかけ依頼をして回った。  
 \*依頼した箇所での募金箱回収 ハンド・イン・ハンド募金集計 ¥2,252,021円

- 12月7日(火) 白石町立北明小学校 人権集会 出前授業 8:20～9:00  
 全校児童 139人 <体育館>  
 テーマ:世界の子どもたちとユニセフ  
 ～人権について考えよう～  
 SDGsってなあに?



- 12月7日(火) 白石町立六角小学校 人権集会 出前授業 10:20～12:00:00  
 全校児童 100人 <体育館>  
 テーマ:世界の子どもたちとユニセフ  
 ～人権について考えよう～



- 12月24日(金) 小城市立岩松小学校  
 終業式にて児童会代表から募金贈呈 <体育館>  
 8:50～9:10



- 12月28日(月) ボーイスカウト佐賀第5団 募金贈呈 10:30  
 ボーイ団員1名、代表者1名 計2名来所

(ファミリーボックスで募金)



ご支援  
 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 (株)田口電機工業様 母子草様 佐賀銀行文化財団様 佐賀市川副町民生児童委員協議会様 佐賀市文化会館様 元佐賀空港一番館様 進税理士事務所様 アルタ高木瀬店様 TSUTAYA鍋島店様 東洋館様 えんぴつ館様 恵比寿鍼灸整骨院様 団野法律事務所様 アルタ開成店様 サンシャレー様 ホテルニューオータニ佐賀様 サウンド・スピリッツ木原慶吾様 ぎょうぎ屋様 三瀬そば様 ふくしま薬局通小路店様 西国御領風羅坊様 菖蒲ご膳様 グランデはがくれ様 (株)北島マルポーロ様 北川歯科様 多布施クリニック様 みねまつ整骨院様 矢山クリニック様 内野産婦人科様 旅館あけぼの様 イエローハットモンテカルロ太陽本庄店&医大通り店様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 川崎自工様 手打ちそばうどん夢心様 天山カントリークラブ北コース様 ヘアー&フェイスドゥース様 村岡屋駅南本店様 村岡屋高伝寺店様 村岡屋卸本町店様 いっせい麺処様 山小屋ラーメン南佐賀店様 佐賀ギター音楽院様 れすとらん志乃県庁店様 H&M EXCEL W.E.N.S様 EXCELアムール店様 国府団地資源物回収協力会様 麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科様

コープさが生活協同組合様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 医療法人北士会北川眼科様 池田内科皮膚科医院様 佐賀新聞社総務局様 基里小学校様 大塚製薬佐賀工場様 佐賀市立図書館様 佐賀新聞社様 佐賀玉屋様 かささぎの里様 神崎市ドリームパーク様 佐賀県立白石高等学校様 佐賀共栄銀行様 佐賀県南部地区郵便局長会様 蓮池衛研工業様 峰会計事務所様 JSA中核会佐賀支部様 佐賀市役所子ども課様 のぐちクリニック様 インテリア新生様 みずがえケアサポート様 第一生命様 栗山内科医院様 佐賀県税事務所様 佐賀中部保健福祉事務所様 ヘルスランチあららぎ様 循誘公民館様

柳川市立矢ヶ部小学校様 佐賀市立諸富北小学校様 佐賀市立鍋島小学校様 武雄市立東川登小学校様 鹿島市立鹿島小学校様 佐賀市立東与賀小学校様 武雄市立武雄小学校様 上峰町立上峰小学校様 佐賀市立赤松小学校様 佐賀市立北山東部小学校様 佐賀市立嘉瀬小学校様 小城市立岩松小学校様 白石町立六角小学校様 佐賀清和中学校ユニセフ実行委員会様 神崎市立神崎中学校様 鳥栖市立鳥栖西中学校様 唐津市立浜玉中学校様 佐賀西高等学校ボランティア同好会様 佐賀県立三養基高等学校様 佐賀県立鳥栖商業高等学校生徒会様 佐賀県立佐賀東高等学校様 ボーイスカウト佐賀第5団様

(順不同:2021年9月1日～2021年12月31日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。  
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



# Hand in Hand

第43回(2021年度)ユニセフハンド・イン・ハンド募金キャンペーン



第43回(2021年)ハンド・イン・ハンド募金～できることから始めよう～すべての子どもの権利が守られ、健康で希望に満ちた未来を実現するために、ユニセフの活動や世界の子どもたちのことを知り、ハンド・イン・ハンド募金活動にご協力をお願いいたします。

ハンド・イン・ハンドとは、政治、宗教などに関係なく、「手に手をとって」世界の子どもたちのしあわせと明るい未来を実現させるために、ユニセフの保健、水と衛生、栄養、教育、緊急援助等の事業への支援を通し、「子どもの権利条約」がすべての子どもに守られるよう、一人一人がボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。

## 2021年 今年のテーマ すべての子どもの権利が実現される世界を ～できることから始めよう～

世界中のすべての子どもは、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」などの権利を持っています。これらの権利はあたりまえにあるべき権利なのですが、その権利を脅かす要因がたくさんあります。予防できる病気、紛争、貧困、自然災害、新型コロナウイルス感染症などにより、子どもが守られ、成長する権利が脅かされています。今年のハンド・イン・ハンドでは、まず、世界の子どもたちの現状を知り、子どもの権利について考えましょう。

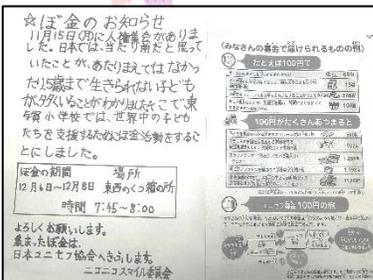
### ◆今年のハンド・イン・ハンド参加の特徴

#### \*「出前授業」からつながった募金活動

★佐賀市立東与賀小学校 ニコニコスマイル委員会の取り組み

11月15日、東与賀小学校の「人権教室」の出前授業(オンライン)を行いました。

その後、担当の先生から「子ども達から募金活動をしたいという声が上がリ、「ニコニコスマイル委員会」の子ども達が家庭への呼びかけチラシを作り、募金期間中は、昇降口で始業前に募金活動を行いました。募金贈呈をしたいのでおいでください。」という連絡がありました。出前授業から新たなつながりができてきました。



【ニコニコスマイル委員会の募金呼びかけ手作りチラシ】



#### \*「SDGs絵画展」から広がった募金活動

★唐津市立浜玉中学校生徒会の取り組み

第5回SDGs絵画展に唐津市立浜玉中学校からは数点の作品応募があり、その応募作品をスタッフがお返しに行った時に「学校内での募金活動」の依頼をさせていただきました。実際には生徒会の皆さん達が、11月29日～12月中旬まで全校生徒に給食時間を利用して放送で募金の協力をお願いしてくださいました。呼びかけた内容は、青い募金箱に書いてあった『あなたの1,000円でこんなことができます。』の具体的な支援物資について紹介されたそうです。

【学校の昇降口の窓に掲示されているSDGsロゴマーク】



#### ★その他にも、学校内や団体で募金活動をしてくださった皆さん、ありがとうございました。

柳川市立矢ヶ部小学校 佐賀市立諸富北小学校 佐賀市立鍋島小学校 武雄市立東川登小学校 鹿島市立鹿島小学校 武雄市立武雄小学校 上峰町立上峰小学校 佐賀市立赤松小学校 佐賀市立北山東部小学校 佐賀市立嘉瀬小学校 小城市立岩松小学校 白石町立六角小学校 佐賀清和中学校ユニセフ実行委員会 神崎市立神崎中学校 鳥栖市立鳥栖西中学校 佐賀西高等学校ボランティア同好会 佐賀県立三養基高等学校 佐賀県立鳥栖商業高等学校生徒会 佐賀県立佐賀東高等学校 ボーイスカウト佐賀第5団



# 第5回SDGs 絵でつたえよう！『わたしたちの地球』を守る絵画展 作品応募が500点近くありました

★第5回 絵で伝えよう！『わたしたちの地球』を守る絵画展を10月26日（火）～29日（金）まで、佐賀県庁1階の県民ホールで開催しました。  
表彰式は、11月3日（水）佐賀市医師会立看護専門学校 講堂で行いました。  
★コロナ禍の中、小中学校の夏季休業も3週間と短かったにもかかわらず、昨年の応募数を大きく超える応募がありました。自然災害や食糧危機、紛争による難民の増加、新型コロナウイルスの感染拡大による教育の場の喪失など様々な課題が浮き彫りになり、SDGsの達成が急務となってきました。  
多くの企業や学校、国や各自治体でも『SDGs=持続可能な開発目標』の周知も進み、様々な取り組みについて発信しています。絵画展の応募作品の増加もSDGsの重要性が浸透してきたからだと思っています。



【作品募集のイラスト】

## 《絵の展示》 佐賀県庁県民ホール

## 《表彰式》 佐賀医師会立看護学校(講堂)



【絵画展の様子】



## 《審査会 9/29》

【森先生、井上先生による審査の様子】



【特別賞受賞者及び主催者との集合写真 2021. 11. 3】

**1. 日本ユニセフ協会会長賞**  
【龍谷中学校2年 野田健瑠さん】



少年が苗を植えていて、それが大きくなるといふ思いで描きました。

**2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞**  
【江北小学校4年 湧上莉弓さん】



「ひとみにうつる今と未来」  
目の中にきたない海ときれいな海を描いた。

**3. 佐賀県ユニセフ協会会長賞**  
【鹿島小学校6年 岩永吏人さん】



水の惑星といわれている地球は、森が豊かだからこそ小川にも小さな生き物が住み、それが豊かな海をも育んでいる。その水をきれいに守っていくことが地球を美しいままで保っていくことだと思ったので、絶滅危惧種のメダカと地球を描きました。

**4. 佐賀新聞社賞**  
【佐賀大学附属小学校2年 吉原美和さん】



きれいな水がたくさんあるといいな。

**5. 佐賀新聞社賞**  
【鳥栖西中学校1年 阿比留絢菜さん】



「ちょっとした思いやりが、1つの命をすくう。」という意味をこめて、絵を描きました。

**6. 佐賀新聞社賞**  
【思齊館中学部3年 池末明聖さん】



プラスチックごみを人間が捨てたことによって、海にいる生物たちが命を落としてしまう。自分らの身勝手な行為で他の生物たちに迷惑をかけていずれば自分らにも被害が来る。そんなことを伝えたい。

# 10/28(木)～10/29(金) 日本ユニセフ協会キャラバン隊が 5年ぶりに佐賀県を訪問されました。



ユニセフ  
キャラバン  
キャンペーン

## ◆[ユニセフ キャラバン キャンペーン]の趣旨]

ユニセフ・キャラバン・キャンペーンは、世界の子どもの現状やユニセフ（国際児童基金）の活動に関する知識や認識の普及・啓発を目的に、1979年「国際児童年」を記念してスタートしました。

日本ユニセフ協会の学校事業部では、4年ごとに全国を巡回して、学校の先生方を対象にした「**ユニセフ研修会**」や学校での児童・生徒を対象にした「**ユニセフ教室**」を開催しています。

また、それに合わせて**各都道府県の知事や教育長**を訪問し、日ごろの授業や教育活動を通じ、世界の子どもの現状の理解促進を図っていただくように働きかけを続けています。

※佐賀県訪問は、今回10回目です。



【日本ユニセフ協会早水専務理事が山口祥義知事を訪問、佐賀県ユニセフ協会中尾清一郎会長とスタッフも同行】

## ◆メッセージ交換概要



【山口知事とメッセージ交換】

メッセージ交換では、**早水専務理事**が、新型コロナ禍の中、世界の子ども達が教育を十分に受けられなかったり、幼い子どもたちへの別の感染症のワクチンなども行き届かなくなったりしている現状などを説明し、県知事や教育長にさらなる支援をお願いされました。

また、**早水専務理事**は、**2020年度の「ユニセフ学校募金」への参加率が、佐賀県の小学校は全国3位、中学校は全国1位である**ことを紹介しお礼の言葉を述べられました。



【落合教育長とメッセージ交換】

**山口祥義知事**は、「人と人、国と国が協力し難局を乗り越えないといけない。ユニセフの活動の発展を応援している。」と述べられました。

**落合裕二教育長**からは、佐賀県ではICT教育が進んでいて、そのメリットがあることや生徒の意見を取り入れながら、さらに人権教育にも力を入れていきたい。」と話されました。

## ◆10/29 日本ユニセフ協会の学校授業部職員が2校で「ユニセフ教室」を実施。

### 《武雄市立武雄北中学校2年生38名》

★10月29日（金）10：30～11：15

★講師：日本ユニセフ協会職員 山口鮎美氏

★内容：世界の子どもたちが置かれた様々な状況について写真や映像を用いて説明されるほか、SDGs（持続可能な開発目標）にも触れながら、私たちがこれから取り組むべき課題について考えさせる授業でした。



【対面授業】

### 《佐賀県立唐津西高等学校 全校生徒472名》

★10月29日（金）14：50～15：40

★講師：日本ユニセフ協会職員 鈴木有紀子氏

★内容：水道が普及していないネパールの農村で、子どもたちが毎日の水汲みに使っている真鍮製の水がめや、マラリア予防のための蚊帳など、各地で使用されている実物を紹介しながら、より身近に世界の課題を考える機会を提供する授業でした。



【代表生徒へは対面授業、各学級へはライブ配信授業】



# unwish の仲間たち!

柳川市立矢ヶ部小学校の皆さん

—福岡県 柳川市—

★23年間も、学校全体でユニセフ募金活動を続けられています。



【毎年、12月のハンド・イン・ハンドの街頭募金活動に参加される児童とPTAの皆さん (2019.11.30 ゆめタウン佐賀店にて)】



【矢ヶ部小学校 HPより】

## 【学校の紹介】

矢ヶ部小学校は、福岡県柳川市の北東部に位置し、全校児童109人の学校です。柳川市は佐賀市にも近く、生活圏としての交流も多い地域です。

学校生活の中に縦割り班で行う「やかべっ子タイム」の活動等を取り入れ、やさしい子どもの育成にも力を入れています。特に人権・同和教育研究・実践校としての実績もあり、11月の土曜授業の際に、保護者を含めての人権学習にも取り組まれています。

また、その後にユニセフの募金活動へと参加されています。本年度は、全校児童で収穫したもち米を販売した収益金なども募金にされています。これらの協力から、平成26年には、**佐賀県ユニセフ協会設立20周年記念式典表彰**を受けられました。



【全校朝会で呼びかけて集まった募金を贈呈する6年生の運営委員の皆さん】

## 【6年生の運営委員さんから】

◆2020年から2021年にかけては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で街頭募金活動が中止となりました。世界には自分たちと同じ年頃の子供達が貧しくて食べるものがなかったり、紛争で学校に行けなかったりする子どもが沢山いることを知り、自分達にできる募金活動をするに



しました。総合的な学習の時間に収穫したもち米を販売したお金を募金したり、11月の全校朝会で、みんなに募金を呼びかけたりしました。12月4日～12月10日の人権週間に先駆けて、11月20日～12月3日の間、児童が登校をしてくる朝の時間に靴箱のところで手作り募金箱を持って募金活動もおこないました。

◆柳川市立矢ヶ部小学校では、毎年、12月の土曜日の授業参観の後に、希望される子ども達と先生方、柳川市教育委員会の方々と一緒に、佐賀市の大型商業施設(イオンスーパーセンター佐賀店、ゆめタウン佐賀店)での街頭募金活動に参加されています。

矢ヶ部小学校の児童や柳川市教育委員会の皆様から23年もの長い間、ユニセフへの支援の思いを受け継いでおられる姿に、佐賀県ユニセフ協会関係者一同、敬意を表すると共に心から感謝をしています。

◆最後に、江頭校長先生と担当の北原先生に、この活動を通して子ども達に望むことなどを伺いました。

\*江頭校長先生からは、【ユニセフ募金活動を通して、社会で起こっている様々なことに目を向け、少しでも自分にできることを考えて行動したり、やさしく寄り添ったりできる子どもを育てていけたらと思っています。】

\*ユニセフ募金活動担当の北原先生からは、

【自分たちの生活では考えられないような中で、前向きに生きている人たちの様子を知り、そのような人たちに対して、自分ができることを考え、行動できるようになってもらいたいと思っています。】



【実際の街頭募金活動の様子】



ユニセフ支援活動のスタートは、23年前に矢ヶ部小学校に勤務されていた**待鳥高司郎先生**からです。

待鳥先生は、ユニセフ学習や募金活動にも取り組まれ、ユニセフの輪が広がりました。】

(語り：江頭彰子 校長先生、ユニセフ募金担当 北原慎太郎先生、取材：江島きよ子)